7少年院で「公文式」導入

学びの成功体験　就労後押し

「公文式」教材に取り組む少年院「加古川学園」の在院者＝10月、兵庫県加古川市

少年院で基礎学力を伸ばし、出院後の就労につなげようと、関西の7少年院が学習塾経営の「公文教育研究会」と連携した新たな学習支援プログラムを導入した。個々のレベルに合わせた教材を反復する「公文式」を使い、出院者の受け入れに積極的な企業とも協力。先行実施した施設で学び「人生が変わった」という声もあり、法務省は効果が実証されれば全国に広げたい考えだ。

プログラムが始まった10月、兵庫県加古川市の少年院「加古川学園」の教室で、15～20歳の希望者10人が国語や算数のプリントに取り組んでいた。少年の一人は「参加したのは自分が逃げてきたことに向き合うため。義務教育と言われるところまでは知識として入れたい」と宣言した。

犯罪白書によると、刑法犯で摘発された少年の再非行率は近年30％台で推移。少年院在院者の約68％が中学2年ごろの授業が「分からなかった」と答えたとの調査結果も示されており、基礎学力向上が課題の一つだ。

3年前から加古川学園など2施設で公文式による学習支援と、受け入れを考える企業による説明会を合わせたプログラムを試行。今年9月までに106人が修了した。算数は半数以上が1桁の足し算や引き算から始め、授業や宿題を半年間こなすうちに高校レベルに達する人もいるという。

発案したのは、更生を支援する「職親プロジェクト」に関わってきた「カンサイ建装工業」（大阪市）の社長、草刈健太郎さん(52)だ。きっかけは十数年前、講話で訪れた少年院でのやりとり。「かけ算ができるんか」と少年たちに尋ねると「できない」と答えた人が予想以上に多かった。「機会の提供で人は変わる」と信じ、自身の会社でも積極的に採用する。

在院中にプログラムで参加した建設業の男性(20)は、学んだ知識が塗料を混ぜる比率を計算する際に生きているという。「勉強できんでも生きていけるというのが自分の芯だったが、人生が変わった。ちゃんとした生活をしていたら悪い道に行かない」と手応えを語る。

加古川学園の榎本康人法務教官(62)は、これまでの受講生には集中力やコミュニケーション能力の向上が見られたと分析。「やろうと思ったことを最後までやり遂げた経験のない少年が多く、成功体験は出院後に仕事を頑張る自信になる」と力を込めた。

傷害罪で勾留中　被告

静岡　入院の大学病院

5日未明、静岡県伊豆の国市長岡の順天堂大医学部付属静岡病院から、傷害罪などで起訴され入院中の住所不定、無職の島田健太郎被告(54)が逃走した。静岡県警が行方を追っている。

県警富士宮署によると、島田被告は9月上旬、同県富士宮市のスーパーで食品1点を盗み、呼び止めた警備員を転倒させ負傷させたとして、強盗致傷容疑で逮捕された。その後、地検が傷害罪などで起訴していた。

11月28日に同署の留置場で箸を使って自身の腹を刺す自傷行為をしたため入院していた。

島田被告は5日午前1時15分ごろまでの間、病院の人部屋から逃げ員がカーテン

警部の自殺
発表基準認

福岡県警の男性
殺を図って搬送
日後に死亡し
所は公表して
た。

法務省矯正
施設の死亡事
認識せず非公
があり、全国
刑務所に再発
したと明らか
岡拘置所で9
わいせつ罪で

選手の特

最適

㊤片足の重量がわずか
した「メタスピード

㊦アシックスのシュース
世界大会初出場で7位
＝9月、国立

る。男子では銅メダルを含め3人が入賞。女子も元市民ランナーの小林香菜選手（大塚製薬）が世界大会初出場で7位に入る快挙を成し遂げるなど、3人が入賞した。

えるようになってきていると感じている」と強調。狩野さんは「私たちのブランドというものをしっかりと発信でき、存在感を出すことができた場になった」と大会を総括した。

新たな防災気
では、4種類
水、大雨、土
潮）ごとに、
戒レベルと警
称を併記。名
が高い方から